

教員氏名：根本 想（スポーツ教育専攻／講師）

1. 教育の責任（何をやっているか）

担当科目と指導内容

スポーツ教育専攻に所属し、主に中学・高校の教員免許状（保健体育）取得に必要な科目を担当している。具体的には、教育の基礎的理解に関する科目の「特別活動の指導法（中・高）」をはじめ、教科に関する専門的事項を扱う「体育実技Ⅱ（水泳）」、「体育原理」、さらに教育実践に関する「初等中等学校体験活動 A」、「中等教育実習事前事後指導」および「中等教育実習Ⅰ・Ⅱ」を担当している。また、学生指導の基盤となるゼミとして「教育学研究法Ⅰ・Ⅱ」や「卒業研究」を担当し、卒業論文指導や進路指導を行っている。加えて、前期集中講義のゴルフ実習「生涯スポーツⅢ」や後期集中講義のスキー実習「生涯スポーツⅡ」でも学生の引率と指導を行っている。

非常勤講師としての活動

非常勤講師としては、東洋大学で「スポーツ社会学」、関東学院大学で「スポーツ文化論 1・2」を担当し、オンデマンド授業を行っている。また、前橋育英高等学校では「専門実技（ゴルフ）」の授業を担当し、ゴルフ部の生徒のラウンド補助を行っている。

課外活動の指導

課外活動では、ゴルフ部部長、公務員サークル部長を務めている。ゴルフ部では週 1 回の練習を、公務員サークルでは週 3 コマ程度の試験対策を行っている。さらに、前橋育英高等学校のゴルフ部副顧問として、練習や大会の引率も担当している。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

学生の主体的な成長の促進

学生一人ひとりが主体的に学び、自己の成長を実感できる環境を提供することにある。スポーツ教育は、身体能力の向上のみならず、自己管理やチームワーク、リーダーシップといった人間力を育む場であると考えている。特に保健体育科の教員として、学生たちが将来、教育現場で子どもたちに対して適切な指導を行い、彼らの成長をサポートできるよう、教育者としての意識を高めることに注力している。

スポーツを通じた実践的な学び

スポーツを通じて、学生たちが自分の力を発揮しながら、他者と協力して目標を達成する経験を重ねることを重視している。このプロセスを通じて、学生が自身の成長を感じ、協力と成果を実現する力を養うことを目指している。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

理論と実践の統合

理論と実践をバランスよく組み合わせることを心がけている。たとえば、「体育実技Ⅱ（水泳）」では、実技指導を行うと同時に、その背後にある科学的根拠や指導理論を解説し、学生が指導者としての視点を養うことができるよう工夫している。

個別指導と双方向性の重視

教育実習やゼミでは、学生が直面する課題に対して個別に指導を行い、自己解決能力の向上を図っている。さらに、オンライン授業においても双方向性を重視し、ディスカッションや課題を通じて学生同士の意見交換を促し、深い学びを引き出すことを目指している。

自主性を促す課外活動のサポート

課外活動では、学生の自主性を尊重し、主体的な活動をサポートすることで、彼らが自らの目標に向かって努力できる環境を整えている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

進路における成果

これまでの教育活動を通じて、学生たちが自分の可能性を広げ、様々な分野でその力を発揮している姿を見てきた。教育実習を経て、学生たちは現場での経験を通じて自己成長を遂げ、将来の目標に向けた具体的なプランを描くことができるようになっている。

卒業研究での学びの成果

卒業研究では、各自が興味を持つテーマに深く取り組み、その成果を論文やプロジェクトとして形にすることで、学びの成果を実感している。

公務員サークルでの実績

公務員サークルの活動では、警察官や消防官、市役所職員として採用試験に合格する学生を複数輩出しており、実践的な指導が成果を上げていることを確認している。

課外活動でのスキル習得

部活動においても、リーダーシップやチームワークを培い、社会での活躍に向けた基盤をしっかりと築いていることを実感している。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

指導方法と教育内容のさらなる向上

今後の目標としては、学生の多様なニーズに応じた指導方法のさらなる発展と、教育内容の質的向上を目指していきたいと考えている。特に、教育のデジタル化に対応したオンライン教材の充実や、教育実習における現場体験の拡充を図り、より実践的な指導ができる環境を整備したい。

学生の主体的な学びの支援

学生が主体的に学び続けることができるよう、自己学習をサポートする仕組みやフィードバックの質を向上させ、彼らが教育者としてのキャリアを築いていくための基盤を提供していくことを目指している。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

1 担当科目のシラバス

(2026 年 4 月 1 日現在)